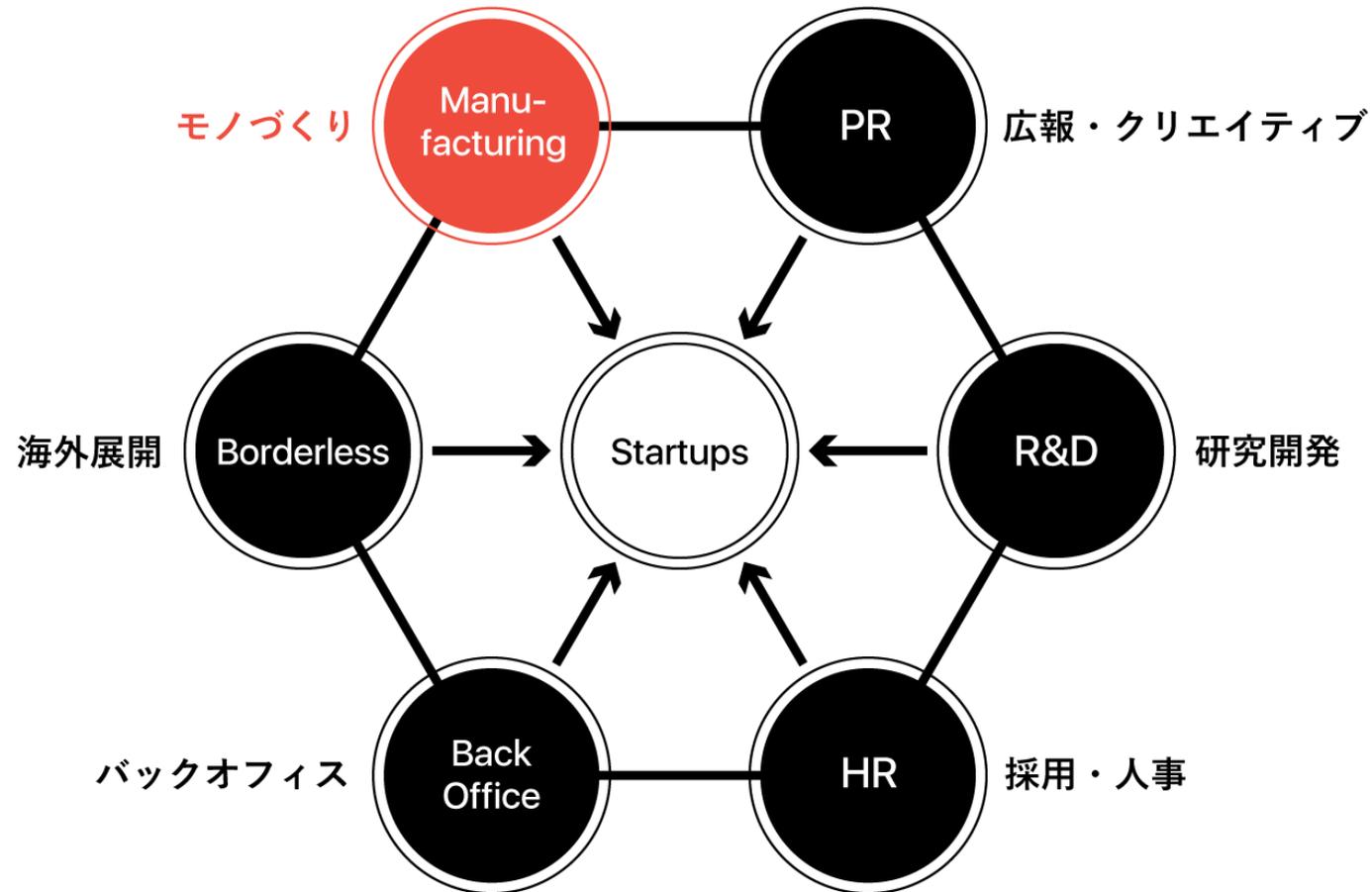


**REAL TECH**

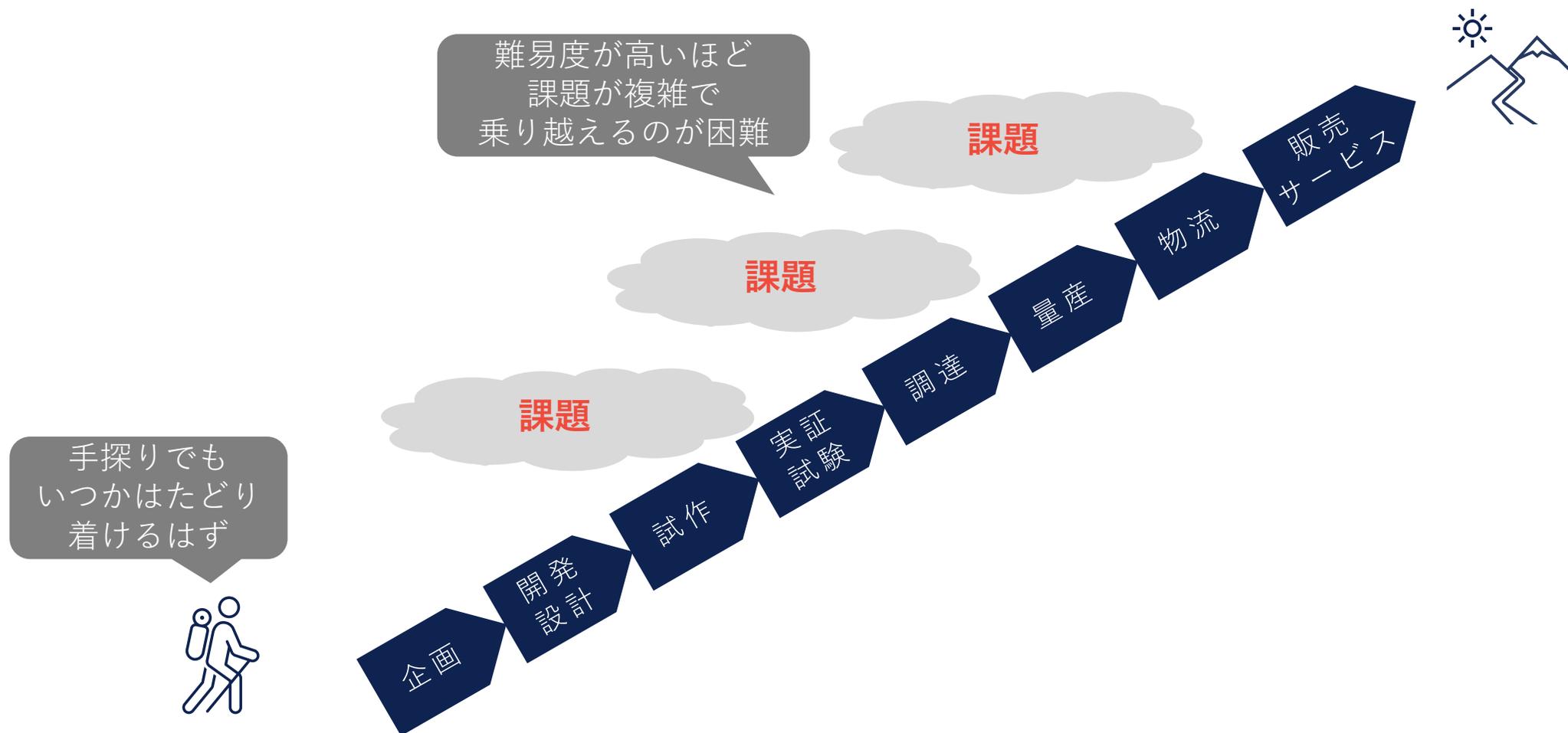
**Manufacturing**

**Booster**

# スタートアップ社会実装のためのプロフェッショナル支援サービスのひとつ

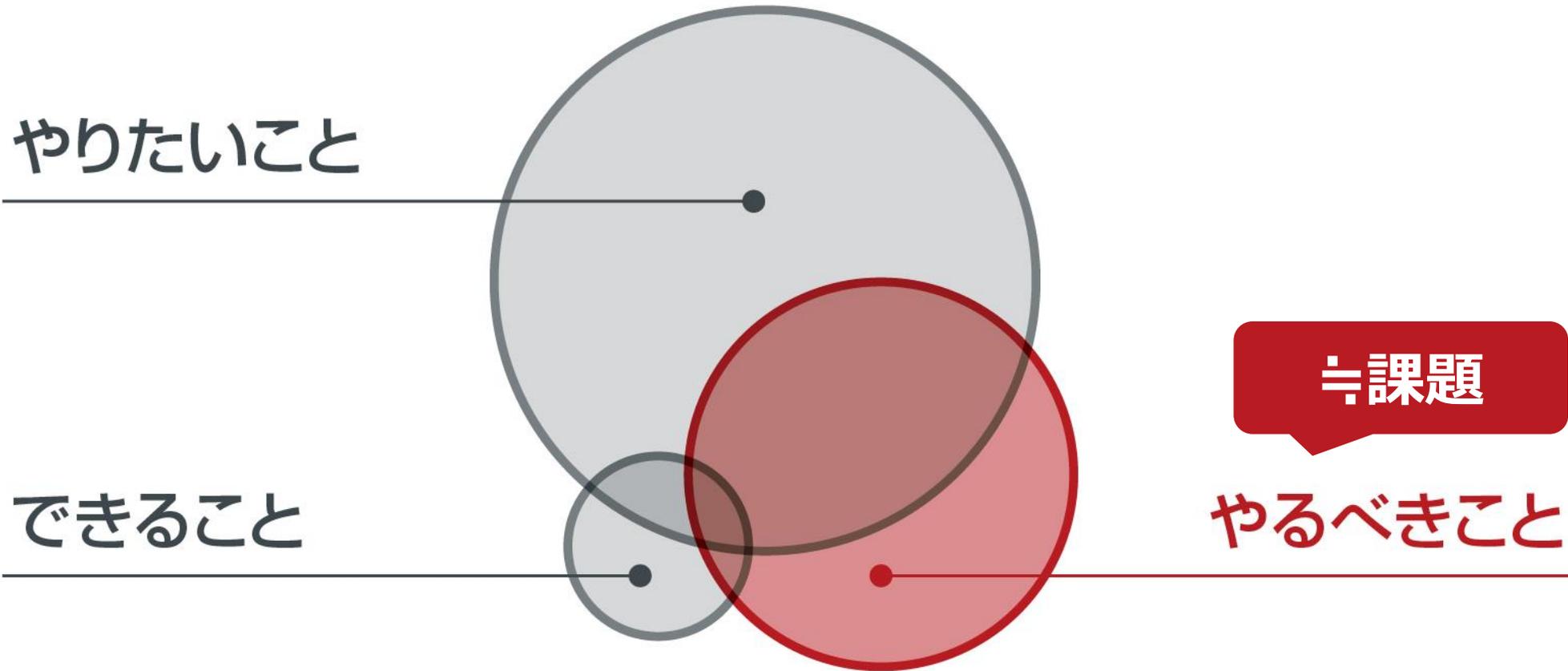


## 社会実装までには多くの課題を乗り越える必要がある

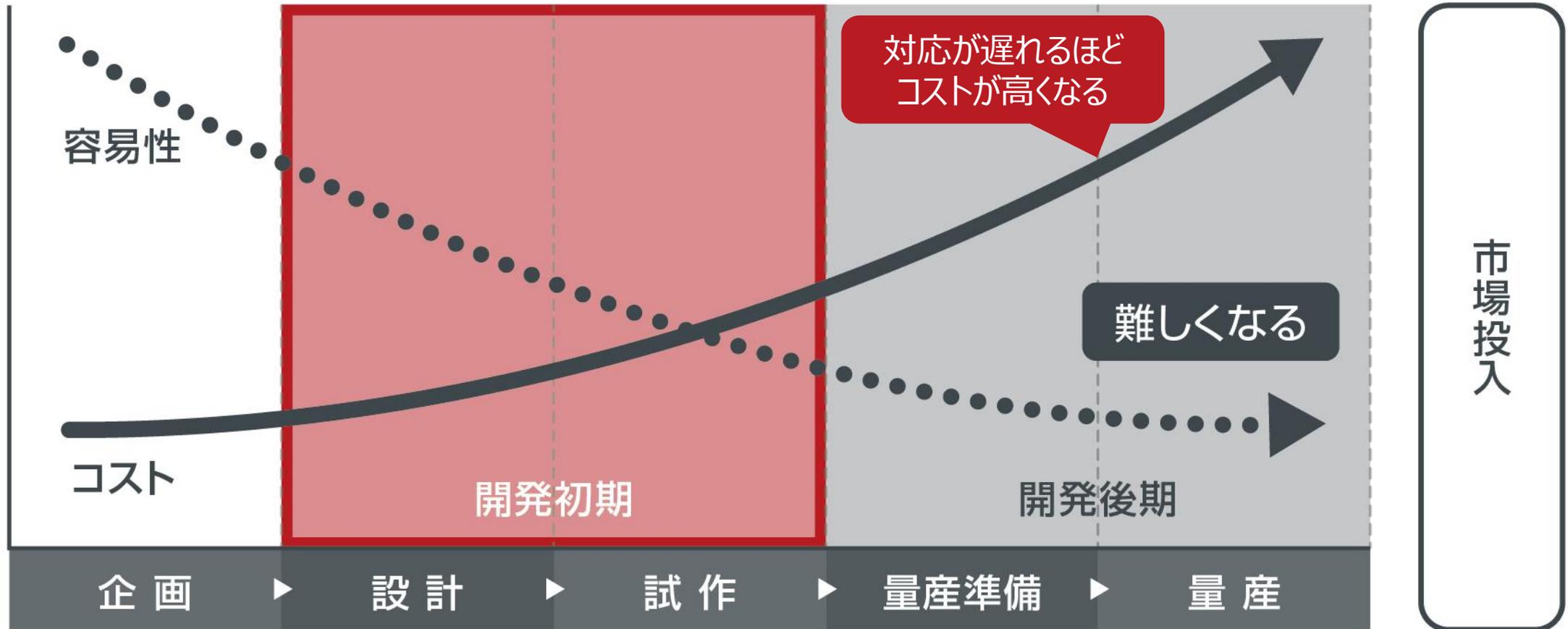


スタートアップで起きがちなこと

「やりたいこと」を優先し、「やるべきこと」を後回し

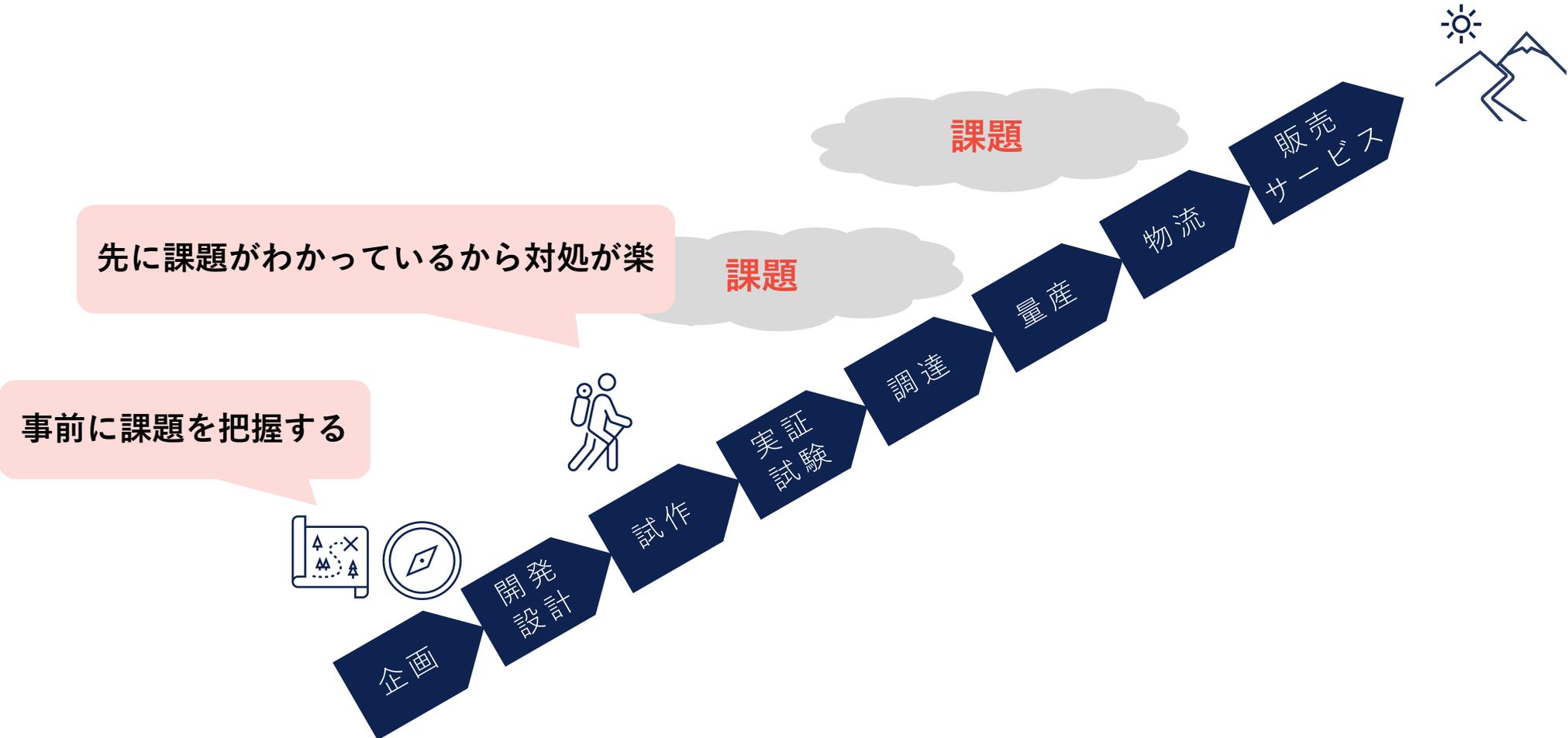


## 課題解決は対応が遅れるほどコストが高くなる

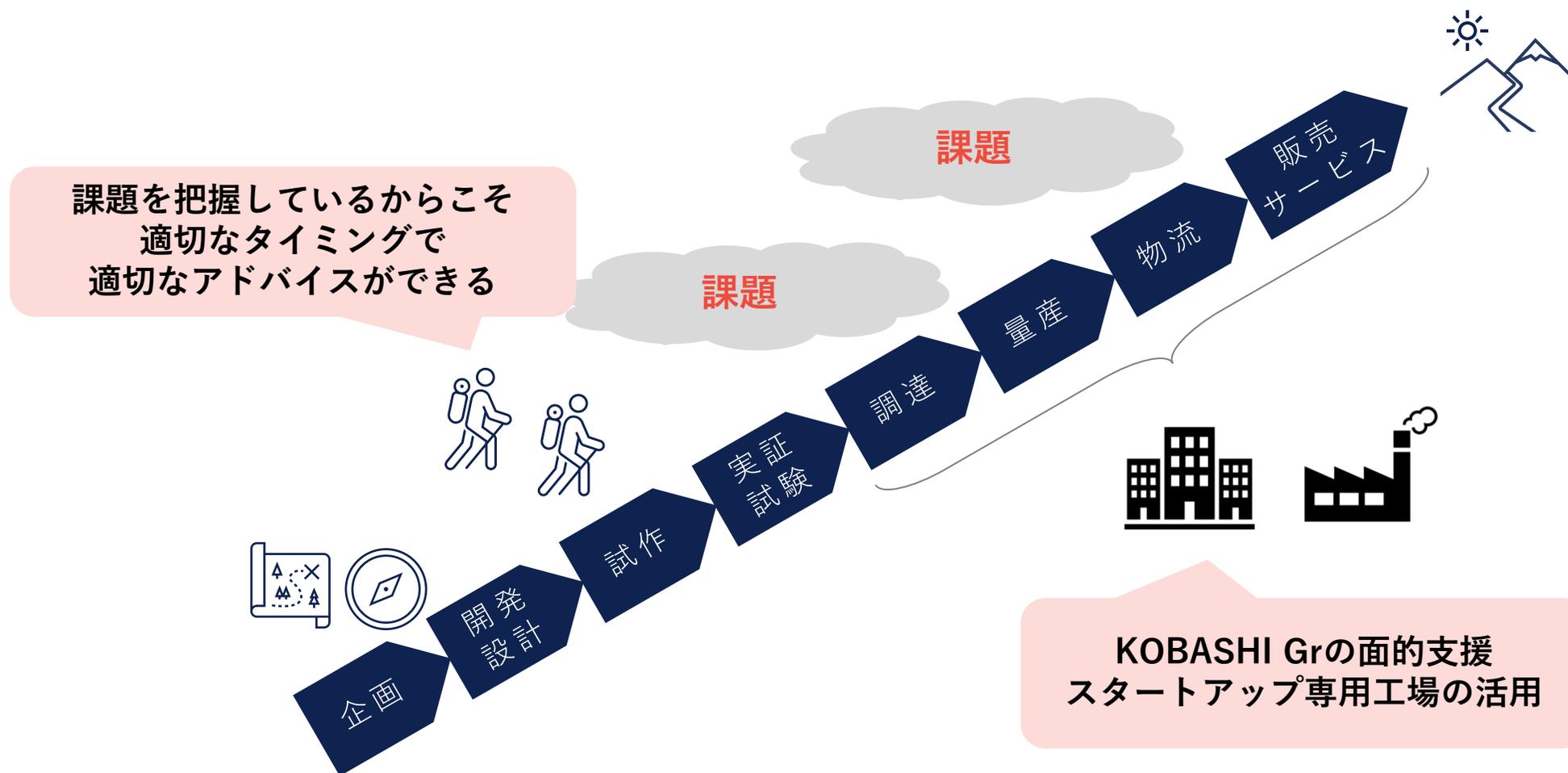


Manufacturing Boosterの特徴①

課題の全体像と優先順位を把握することで、  
ヒト・モノ・カネのリソースを抑える



## 課題整理後も伴走型の包括的支援が可能



## こんな事でお困りの方に

### 相談先がわからない

複雑なモノづくりの課題をある事象の一側面だけで判断すると見誤るため、多面的な判断可能な経験豊富な知見者が必要です。

### 判断が難しい

製品化に至る工程は多岐にわたりタスクも膨大。技術も市場も急激に変化している中、優先順位付けや判断は益々難しくなっています。

### 正解がわからない

技術や工程の詳細を把握していても、進む方向は正しいのか、どんなリスクがあり得るかなど、全体像を把握するのは至難の業です。

現状確認とリスクの洗い出し

概要説明

カルテ

サービス範囲

社会実装に向けたアクションプランの提示

伴走支援

設計支援

製造支援

カルテの結果とニーズ次第で実施

STEP1

## 問診票の記入

ベンチャー側で「問診票」に記載いただき、ものづくりの課題感を大まかに把握する。

お客様の質問事項に当てはまるものをチェック

Q1. 現在の制作物に対する満足度は？

とても良い     良い     普通     悪い

Q2. 改善すべき点は？

STEP2

## モノづくり診断

複数回にわたるヒアリングを通じた「診断」を行い、より本質的な課題を認識する。



STEP3

## 診断書の作成

「カルテ」という形で、モノづくりの段階に応じた現状の課題と解決方針を言語化し、スタートアップとの対話を通じて解像度を上げていきます。



# カルテイメージ① | Will/Can/Must

Confidential

**A社 診断書**

量産関連の項目は社外に全面的に頼ることが必要。  
現在進行形の企画～開発の部分については、組織としての企画能力が特に弱く、個人の能力に依存している。  
開発・試作能力についても若干不足している。  
(ただし、コスト面・品質面にリスクを抱えるが、このまま進行してもなんとか量産にたどり着ける水準にあると思われる。)

▶ 量産は特に手厚くしつつ、全体的にサポートする。(ただし今の量産数にあわせ100点は目指さない)

**やりたいこと**

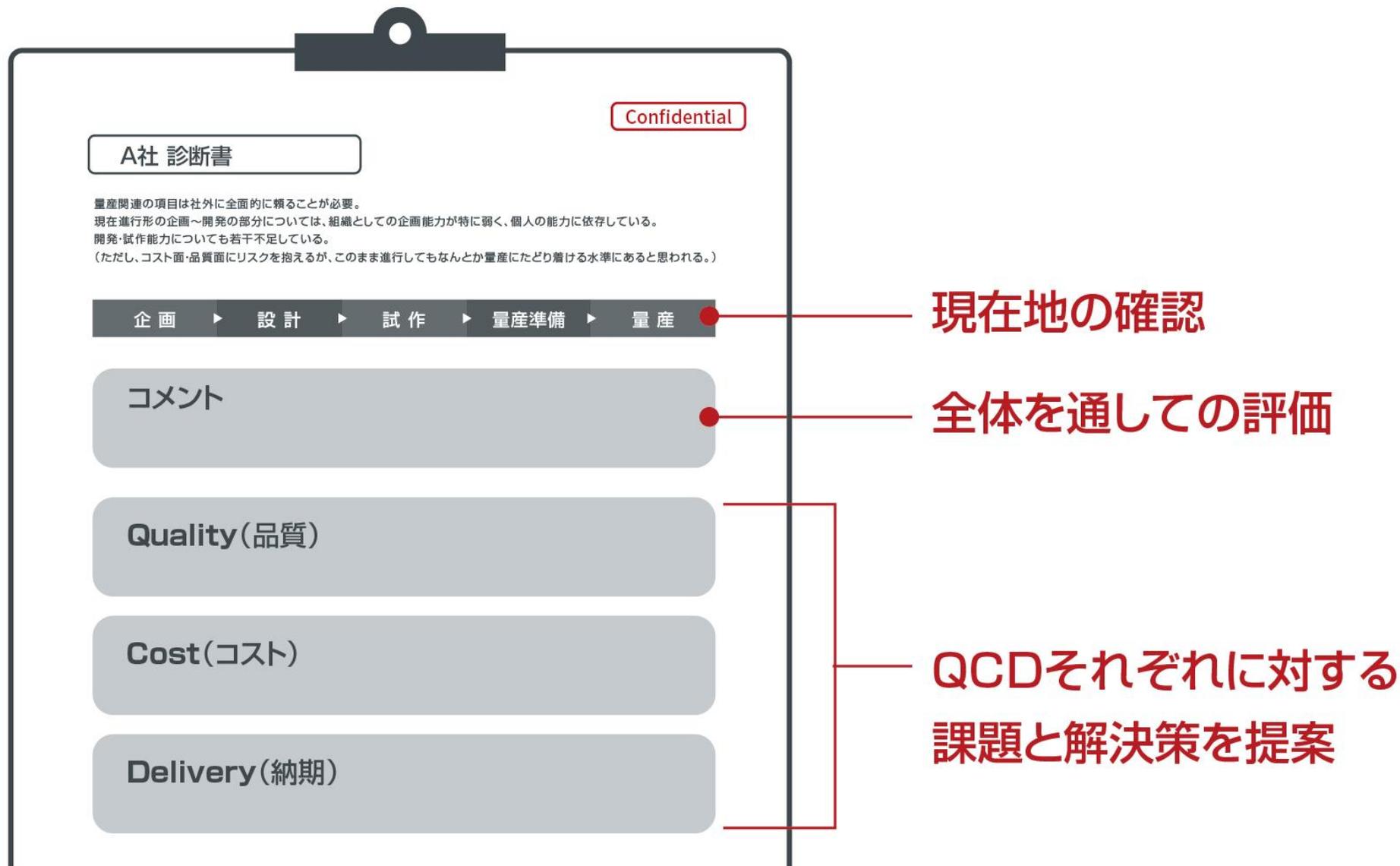
現時点で、当該スタートアップがモノづくりで「やりたい」と考えていること (計画として入れているもの)

**できること**

現時点での、当該スタートアップ自身のケイパビリティで、モノづくり上のできること

当該スタートアップが置かれている現状において、モノづくり上やらなければ問題が起きると思われること

やるべきことを  
4つの属性に分解し、  
モノづくり課題を提示



**REAL TECH**

**Manufacturing**

**Booster**